



D e s i g n

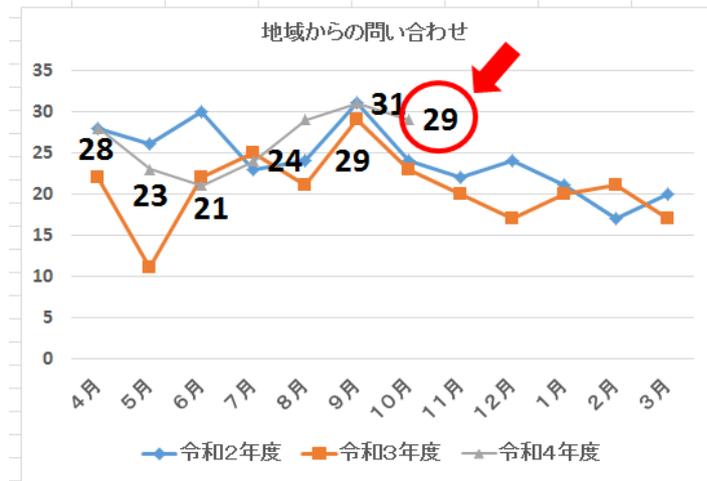
～ 換 気 を 徹 底 し ま し ょ う ～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

令和4年10月の問い合わせ状況について

～ 年末年始も受け入れさせていただきます ～

令和4年10月は、29件のお問合せを頂戴しました。例年のこととなりますが、年末年始も受け入れさせていただきますので、ご紹介をお願いします。



老健やましろより

～ ご案内パンフレットを刷新しました。～

老健やましろ4階フロアが令和5年4月から京都山城総合医療センター回復期リハビリテーション病棟に転換することに伴い、令和4年10月から入所定員66名(2階・3階フロア)として新たに運用を開始いたしました。これを機に、パンフレットをリニューアルいたしました。

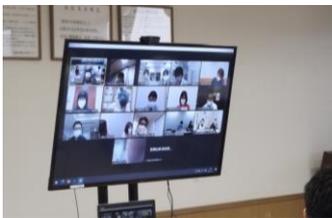
老健やましろにおける各種サービス(入所・ショートステイ・デイケア)内容やご利用者様の1日の流れ等を掲載しております。少しでも老健やましろの取り組みが伝わるように作成いたしましたので、ご覧いただけると幸いです。今後も地域に根ざした在宅復帰・在宅療養を支援する施設としての役割を果たしてまいります。ホームページでもご覧いただけますので、ぜひご参照ください。(老健やましろ 管理部副課長 大西 勝也)

令和4年度第1回認知症疾患医療連携協議会を開催しました。

～ ご出席頂いた皆様、ありがとうございました～



10月17日（月）、令和4年度第1回認知症疾患医療連携協議会をオンラインで開催しました。認知症疾患医療センターの活動報告の後、今回のテーマである「認知症患者・ご家族の伴走支援・円滑な多職種連携」について、和東町地域包括支援センター宗昭子さんからご発表賜りました。宗さんは、「認知症疾患医療センターとの連携支援について」と題して、認知症初期集中支援チームが介入したことで当院認知症疾患医療センターの受診につながり、さらに当院認知症疾患医療センターが他の認知症疾患医療センターと情報を共有し、各関係機関（各援助者）がバトンリレーのように患者や家族を支え続けていた事例を紹介して下さいました。善をなすには細部に至るまで気を配らなければならない、と事例をもって教えられた気がします。



意見交換では、専門外来やサービスに抵抗がある際は「本人のしたい事を引き出す言葉かけを心がけている」「困っている事・興味のある事など、本人から出た言葉から強みを探り援助の軸にしてゆく」など、繋がりづらい対象者といかに関係を作ってゆくか、実践から得られた知恵を聞かせていただきました。

テーマを通して感じた事は、患者・家族そして周辺の援助者を「その気にさせる」ことの大切さでした。「患者・家族とかかりつけ医の信頼関係があると援助に繋がりやすい」という助言もいただき、今後も当疾患センターがその橋渡しになれるよう心がけたいと思います。

（地域医療連携室 公認心理師 谷川 誠司）

回復期リハビリテーション病棟の垂れ幕を設置しました

～ 国道からもご覧頂けます～



回復期リハビリテーション病棟ですが、令和5年4月の開設に向け、現在、関係部署が協力して準備をしているところですが、先日、「令和5年4月回復期リハビリテーション病棟開設」の垂れ幕を設置しました。国道からもご覧頂けます。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

